

テーマ

子どもたちの自立した社会生活の充実に向けて

十勝教育局管内
特別支援連携協議会

～中学校から高等学校への円滑な引継ぎ～

十勝子ども
発達支援部会

教育局による行政説明(中学校と高等学校の情報共有)

- 教育的支援の内容について、中学校との情報共有が進んでいる傾向があること。
- 情報共有はされているものの、「個別の教育支援計画」を活用した引継ぎが行われていないため、学校や担当者によって支援の内容に差が生じており、一貫・継続した教育的支援について、課題があること。(管内道立高等学校からの聞き取りによる情報提供)

推進校の取組

- 高等学校への引継ぎについては、入学決定時、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の内容を口頭、または電話や書面で伝えている。
- 日常的に保護者と信頼関係を築き、協力・理解を得て「個別の教育支援計画」を引き継いでいく必要がある。(更別村立更別中央中学校)



- 入学前に個別相談アンケートを実施した上で、相談会を開催したり、入学時には、保健調査票に項目欄を設けたりし、実態や支援の状況を把握している。
- 校種間の連携については、担当者を明確にする必要がある。(北海道更別農業高等学校)

協議での主な意見

- 【市町村から】
- 生活支援ファイル「つなぐっと」を活用し、学校間で確実に引継ぎがなされるよう働き掛けている。(帯広市)
 - サポートファイルをバースデーファイルとして出生した子ども全員に配付し、活用を促している。(清水町)



- 【中学校・高等学校から】
- 関係機関と支援内容を具体的に引き継ぐためにも、「個別の指導計画」及「個別の教育支援計画」を活用した引継ぎの要領やモデルが示されると取り組みやすい。(十勝管内特別支援学級設置学校長協会長)
 - 具体的な支援の内容を「個別の教育支援計画」を基に、引き継ぐことにより、入学後に生徒本人も教職員にとってもメリットになる。(北海道高等学校長協会支部長)

- 【医療から】
- 本人が幸せな生活を送るためにも、「個別の教育支援計画」の活用必要性を保護者に説明し、作成・活用の同意を得る必要がある。(北斗病院小児科こども総合センター長)

- 【保護者から】
- 「個別の教育支援計画」に、合理的配慮の内容を位置付けることにより、教職員、保護者、関係機関が連携しながら、アセスメントし、評価を行い、適切な環境を提供するなど、本人や保護者にとって安心して学校生活を送るためのツールになる。(北海道自閉症協会十勝分会長)

確認されたこと

- ◇ 小・中学校段階においては、「個別の教育支援計画」を基に、各市町村の保健福祉部と連携を図りながら進学先に各教科における支援や配慮を引き継ぐことが大切であること。
- ◇ 高等学校段階においては、「個別の教育支援計画」を基に、中学校から各教科における支援や配慮を引き継ぎ、進学・就労等について、就業・生活支援センターと連携を図りながら、卒業後の生活につなげることが大切であること。
- ◇ 本人・保護者にとっての切れ目のない支援や連携が求められ、そのためには早期発見・早期療育の推進を図る必要があること。
- ◇ 「個別の教育支援計画」を引継ぎ時に活用することを学校と保護者が連携して進めることが大切であること。

平成31年度の取組

- 幼児期から就労までの支援の内容を一層充実させるために、市町村において、合理的配慮に係る研修会等を実施し、学校、保健福祉が合同で参加する機会を設ける。